日本史新発見

～あの出来事の最新事情～

河合 敦氏
Atsushi Kawai

歴史作家・歴史研究家。多摩大学客員教授。早稲田大学非常勤講師。『世界一受けたい授業』（日本テレビ系）などテレビ出演多数。歴史の意外なエピソードの紹介や分かりやすい解説に定評がある。著書に『世界一受けたい日本史の授業』『日本史は逆から学べ』『逆転した日本史』など。

第１回

明智光秀の裏切りに新事実発覚!?

天正10年（1582年）6月2日未明、本能寺にいた織田信長は、重臣の明智光秀の軍勢に襲われ、あえなく命を落としました。光秀は信長に抜擢され、坂本城主となり丹波一国を与えられた織田家一の寵臣でした。そんな光秀が、なぜ主君を裏切ったのでしょうか。これはまさに、戦国最大の謎の1つです。

謀叛の理由については、数え切れないほど多くの説があります。

代表的なのは怨恨説です。よく挙げられるのが「徳川家康の饗応役（接待役）を仰せつかったとき、腐った魚を出したことで信長から激しい折檻を受けた」「光秀の母を人質に丹波の波多野兄弟を服従させたが、信長の元へ遣わした波多野兄弟が殺されたので、報復として光秀の母が波多野一族に殺された」というもの。

「光秀を動かした黒幕がいた」とする説も多いです。黒幕としては、信長に駆逐された元主君の将軍・足利義昭、信長の横暴を恨んだ朝廷、天下を狙っていた羽柴秀吉や徳川家康、さらにはイエズス会だというものまでバラエティーに富んでいます。

なお、近年大きく注目されているのが、四国征伐回避説です。土佐の長宗我部元親は、織田氏とは友好関係にあり、信長は元親が四国全土を領有することを認めていました。そんな両家との間を取り持っていたのは光秀でした。ところが長宗我部氏が四国を平定しそうな勢いを見せると、信長はにわかに態度を変え、「元親には土佐一国と阿波半国しか認めない」と言い出したのです。仕方なく元親はその言い分を受け入れますが、なんと信長は長宗我部（四国）征伐を決定します。こうした動向の分かる文書が、近年、新たに発見されたのです。これでは、光秀の面目は丸つぶれです。本能寺の変の際には、織田軍は今まさに大坂から四国へ渡海しようとしていました。このため、苦しい立場に立たされた光秀は、長宗我部を守るため、ついに謀叛に及んだという説です。

ちょこっと旅ガイド

【旧本能寺跡】 京都市中京区 市バス四条西洞院から徒歩５分

京都市役所前にある現在の本能寺は「本能寺の変」から10年後の1592年に移転したもの。信長終焉の旧本能寺跡は、四条西洞院交差点から北西に５分ほど歩いたところにあります。高校や老人福祉施設などが建てられた跡地には、当時をしのばせる石碑（写真）が立っています。